対象作品／神戸遥真著『ぼくのまつり縫い』偕成社

自分の「すき」には正直に

弘前市立福村小学校　成田航陵

男女の集まりの中で、少数派の人たちは○○男子や○○女子と言われています。手芸をするのは女性の方が多いので、手芸男子と言われるのかもしれません。僕は、『ぼくのまつり縫い』という本のサブタイトルの「手芸男子は好きっていえない」に共感しました。好きなことに正直になれない気持ちや、男子で手芸が好きというのが僕と似ていたので読んでみようと思いました。

友達に誘われてサッカー部に入った主人公の針宮君は、手芸好きであることを隠しています。けれども、手芸部に助っ人として参加して、手芸部員と関わるうちに、サッカー部から手芸部に転部する決意をします。このお話は、針宮君が自分の好きなことに正直になっていくお話です。

特に気に入った登場人物は二人います。一人は、針宮君がよく行く手芸屋さんの、モモちゃんという店員です。勢いで「手芸なんか興味ない」と言ってしまって落ち込んでいた針宮君のことを、モモちゃんはお茶に誘ってくれました。その時の発言で、モモちゃんが男性だということがわかりました。モモちゃんは男性だけど、スカートをはき、つけまつげをつけ、黒い口紅をぬっています。自分が好きなことを隠さずに、楽しんで生きています。僕はモモちゃんの、他人に変なことを言われても気にしていないことと、みんなに自分を認めてもらうなんて無理だと分かっていて、それでも自分の好きな事に自信を持ってやっていることが、とてもかっこいいと思いました。

もう一人は、針宮君をサッカー部に誘ってくれた友達であるカイトです。カイトにからかわれたくなくて、針宮君は手芸好きなことをずっと黙っていました。モモちゃんにアドバイスを貰った針宮君は、手芸好きなことを伝えました。その時、カイトはすごく怒りましたが、怒った理由は針宮君が何もたよってくれなかったからです。自分のせいで針宮君に辛い思いをさせていたと怒っていて、僕はなんて友達思いのいいやつなんだ、と感動しました。

実は、僕も小学校で手作りクラブに入っています。ミシンで縫(ぬ)うのも、羊毛(ようもう)フェルトでマスコットを作るのも楽しいです。針宮君と同じようにピンク色も好きです。けれど、僕にも少しはずかしいなぁと隠したくなる時期がありました。でも、今ははずかしくありません。僕は僕が好きなものを大事にしているだけなので、たとえからかわれても気にしません。針宮君も同じように好きなことに自信を持ってくれました。僕は、もし自分の好きなことに自信が持てない人がいたら、自信を持てるようにその人のことを助けてあげたいです。